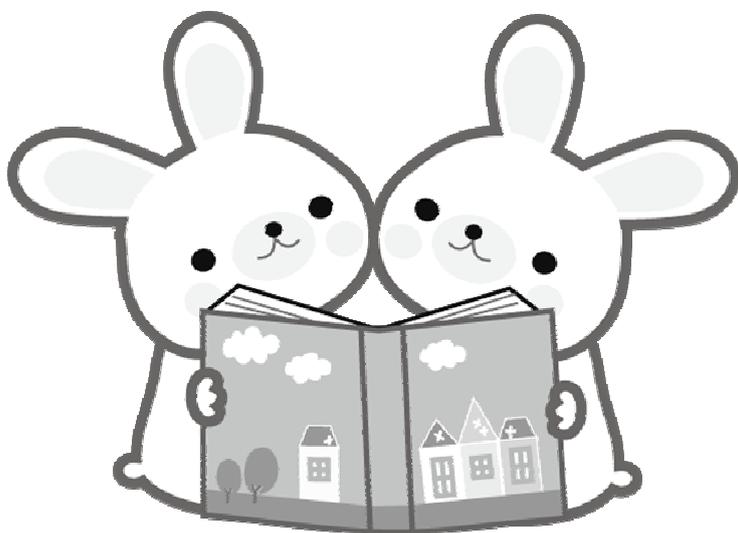


いっしょに本読も!

家読(うちどく) おすすめリスト 2012年版



砺波市の小・中学校で

子どもたちのそばで読書を見守る

学校図書館司書が選んだ

今、家族で読むおすすめの本

を紹介します。

発行：砺波市教育委員会

発行日：2012. 11. 27

編集：砺波市立図書館

心あたたまる絵本



ねこのおすし屋さん

鈴木 まもる／作・絵
偕成社／刊
2009年 ¥1,050-

山の中の小さな村に住むねこたちは、おすしを食べたことがありませんでした。ある日おすし屋さんの車がやってきて、みんな大喜び! ですが…。ねこのしぐさが可愛らしく、「おてつだねこ」にそっくりなねこが大活躍なもの見どころです。



山のとしょかん

肥田 美代子／文
小泉 るみ子／絵
文研出版／刊 2010年 ¥1,365-

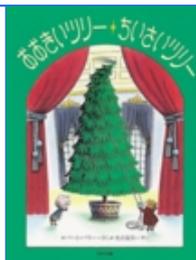
山の中で一人ぼっちでさみしく暮らしているおばあさんのところに、ある日男の子がやってきました。男の子と懐かしい絵本を読んでいるうちにおばあさんはやさしくてあたたかい気持ちになりました。この気持ちを、友達に教えてあげてね。



たいせつなこと

マーガレット・ワイス・ブラウン／さく
レナード・ワイスガード／え
うちだ ややこ／やく フレーベル館／刊
2001年 ¥1,260-

1949年にアメリカで出版されて以来、読みつがれてきた絵本。優しく美しい絵と詩のような文で読む人に語りかけています。身近にある一つ一つのものにも意味があり、自分自身にとって一番大切なことは何かを教えてくれる絵本です。



おおきいつリー ちいさいツリー

ロバート・バリー／作
光吉 夏弥／訳 大日本図書／刊
2000年 ¥1,365-

ウィロビーさんのおやしきに届いたクリスマスツリー。大きすぎたので先っぽを切りました。その先っぽがつぎつぎと切られて森の動物たちのツリーになっていきます、クリスマスにぴったりの心温まるかわいらしいおはなしです。

知ろう、学ぼう



8月6日のこと
中川 ひろたか／文
長谷川 義史／絵
ハモニカブックス／発行
河出書房新社／発売
2011年 ¥1,365-

絵本界屈指の人気コンビが初めて挑んだ「核と平和」の絵本。これは66年前、ほんとうにあった出来事です。中川ひろたかさんが広島で亡くなった伯父、被爆者となった母の体験を伝え、子どもたちに平和を問いかける絵本です。



雪の結晶ノート
マーク・カッシーノ、ジョン・ネルソン／作
千葉 茂樹／訳
あすなろ書房／刊
2009年 ¥1,260-

『はじまりはある冬の日。空高く、さむいさむい雲のなか。雪の物語がはじまります』——美しく、小さな雪の結晶ができるまでの様子と、たくさんの結晶の写真がのっているすてきな本です。全く同じものはない自然のふしぎにうっとりします。



テーブルマナーの絵本
高野 紀子／作
あすなろ書房／刊
2011年 ¥1,680-

昔からの知恵と工夫が詰まった、おばあちゃんのテーブルマナー絵本。やさしい色づかいの絵でわかりやすく、子どもから大人まで楽しめます。日本と外国とのマナーの違いなど、大人でも「へえ～」と思うことが、ひとつはあるはず。



うつる病気のひみつがわかる絵本1
インフルエンザウイルスのフルくん
おかだ はるえ／文
西川 智英美／絵
ポプラ社／刊 2012年 ¥1,890-

毎年流行するインフルエンザ、この絵本はそのウィルスを主人公にして病気になるしくみを楽しく科学的に説明しています。ウィルスたちが増えるときの生き生きとした表情や、めんえき戦隊との戦いをぜひ見てください。攻略マニュアルもあります。



食べもの日本地図鑑

小泉 武夫／監修
佐藤 竹右衛門／イラスト
平凡社編集部／編 平凡社／刊
2012年 ¥1,995-

日本地図と食べものを合わせた「食べもの地図」と、郷土ならではの食材や伝統料理などを取り上げた「図鑑」の2部構成になった「地図鑑」です。郷土の食文化など、子どもたちにも興味深い話が盛り込まれており、読みやすい本です。



実験対決 1 酸性・アルカリ性の対決

ゴムドリ co・文 洪 鐘賢・絵
朝日新聞出版／刊
2010年 ¥1,260-

理科や実験に興味を持っていない子どもでも楽しんで読むことができる科学実験対決漫画です。器具の使い方や実験の進め方、実験結果のまとめ方もわかりやすく、実験クラブのメンバーが共に関わり合い、成長していく姿も見どころです。(9巻まで刊行中)



動物ω図鑑

松原 卓二／写真・文
マガジンハウス／刊
2009年 ¥1,500-

動物のいちばんカワイイのは、クチとその周辺。この重大事実を発見した著者は、クチとその周辺を『ω (オメガ)』と命名しました。そして、日本中の動物園・水族館を巡り歩き、魅力的な動物ωの最高に可愛らしい写真を厳選して収録してあります。



こども東北学

山内 明美／著
100%ORANGE・及川賢治／
装画・挿画 イーストプレス／刊
2011年 ¥1,260-

「東北」って言葉を私たちは何気なく使っているけれど、いったい「東北」の何を知っているかな？あの震災がもたらしたもの、過去の歴史、私たちのこれからについて身近に考えられる本です。

家族で一緒に読んでほしい本



ストライプ

たいへん! しまよになっちゃった

デヴィッド・シャノン／絵と文
清水 奈緒子／訳 セーラー出版／刊
1999年 ¥1,575-

いつも人の目ばかり気にしているカミラは、みんなが嫌いなリマ豆が本当は大好きなことも秘密にしています。ところが新学期の朝、カミラの体が色とりどりのストライプに!!ハラハラドキドキする絵本ですが、大人が読むとときっとするお話です。



におい山脈

椋 鳩十／著 梶山 俊夫／絵
あすなろ書房／刊
1972年 ¥1,470-

人間のせいで住むところを無くした動物たちは地球会議を開き、人間の嫌いな「ゴミ」を集めた山に住むことにします。集まったゴミは山脈のようになって人間は悪びれません。多くの動物物語を描いてきた作者が30年前に描いた作品です。



モンスターをやっつけろ!

(キョーレツ科学者・フラニー)

ジム・ベントン／作
杉田 七重／訳 あかね書房／刊
2007年 各¥735-

小学生ながらあやしい実験と研究をこよなく愛するフラニー。ロボットを開発したり、透明人間になったり、タイムマシンを作ったり…それは必ずトラブルを引き起こす…!!子どもたちに大人気のキョーレツなおはなしです。(7巻まで刊行中)



佐賀のがばいばあちゃん 全4巻

島田 洋七／作
はた こうしろう／絵
徳間書店／刊 2011年 各¥840-

「がばい」とは佐賀弁で「すごい」の意味。少額2年で文字通りのがばいばあちゃんに預けられた漫才師・島田洋七さんの話です。「ポロは着てても心は錦」ばあちゃんの生き方は前向きに生きるヒントがいっぱいです。



パンプキン! 模擬原爆の夏

令丈 ヒロ子／作 宮尾 和孝／絵
講談社／刊 2011年 ¥1,260

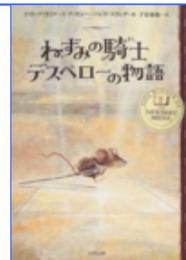
パンプキン爆弾は、長崎に落ちた原爆の模擬爆弾の別名です。ヒロカはそれがきっかけで戦争を身近に感じるようになりました。「知らんより、知ったほうがええよ。」とたくみの力を借りて自由研究で新聞を作ります。どんな新聞ができるかな?



地球のかたちを哲学する

ギヨーム・デュブラ／文・絵
博多かおる／訳 西村書店／刊
2010年 ¥2,940-

地球が丸いと分かっていたころ…昔の人は地球をどんな形とっていたのだろう。三角?四角?それとも…。科学者たちの考えてきた地球の姿に驚くけれど、それは人間の想像力のすごさの証明でもあります。大人も楽しめる絵本です。



ねずみの騎士デスペローの物語

ケイト・ディカミロ／作
ティモシー・バジル・エリング／絵
子安 亜弥／訳 ポプラ社／刊
2004年 ¥1,470-

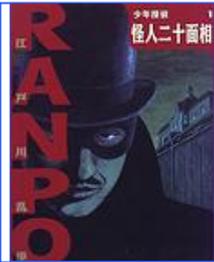
本をかじるのではなく、読んで楽しむことを覚えた小さなねずみデスペロー。人間のお姫様に恋をして、ねずみ界から追放され地下牢へ。そこで出会った看守のグレゴリーに、物語を聞かせます。「物語は光だ」この言葉が深く胸に残ります。



緑の精にまた会う日

リンダ・ニューベリー／作
野の 水生／訳 平澤 朋子／絵
徳間書店／刊 2012年 ¥1,575-

田舎のおじいちゃんから聞いた緑の精ロブの話——ロブは雨と風からできている。ひざしと、そしてひょうからも。それに光と闇からも。過ぎ去った時間、訪れる時間からもロブはできているんだよ——ルーシーはとてもロブに会いたくなりました。



(新) 少年探偵・江戸川乱歩
1～26

江戸川 乱歩／著
ポプラ社／刊
1998年 各¥1,029-

怪人二十面相 vs 明智小五郎&小林少年（少年探偵団）の対決や怪人二十面相が気球に乗って空へ逃げるシーンなど、いつまでも色あせない日本のミステリーを代表する作品です。
同じポプラ社から文庫版も刊行されています。



2005年のロケットボーイズ

五十嵐 貴久／著
双葉社／刊（双葉文庫）
2008年 ¥750-

やっぱり地球は青かった。落ちこぼれのオレと引きこもりのアイツが今年、町工場発宇宙行きの手作り衛星を飛ばします。何かやらなきゃ何も変わらない。落ちこぼれ高校生たちが繰り広げる、たっぷり笑えてちょっぴり泣ける青春小説です。



アラビアン・ナイト
全4巻

齊藤 洋／訳著，一徳／画
偕成社／刊
2005年 各¥1,260、1,470

后に裏切られ女性を憎むようになった王。毎晩娘をめとり、夜明けに殺すという非道さ。これをとめるために選ばれた大臣の娘。王が喜ぶ物語を千と一夜語り続け、見事に王のハートを射止めてしまう。王のように物語のとりこになってみませんか？



青い鳥

重松 清／著
新潮社／刊（新潮文庫）
2010年 ¥662-

言葉がつかえて、うまくしゃべれない臨時講師。でも、先生は、授業よりも大切なことを教えてくれました。今社会問題になっている「いじめ」「学級崩壊」・・・先生が語る本気の言葉に感動して心が震えます。



秘密の花園

バーネット／作 谷村 まち子／訳
ポプラ社／刊（ポプラポケット文庫）
2005年 ¥599-

孤児になったわがままな女の子メリー、誰にも姿を見られたくないとベッドで寝たきりだった一人息子コリン。男の子になつく動物たちが美しく自然の大きな力の中で生きる喜びを見つけ、心までが春になるようなお話です。



がれきの中で本当にあったこと
わが子と語る東日本大震災

産経新聞社／著 産経新聞出版／刊
2011年 ¥1,260-

東日本大震災で本当にあった出来事をまとめた1冊。震災で家族を失いながらも強く生きる子どもたち、プロ意識で救助活動をする人々。悲しみばかりではない、前向きに生きる人々がたくさん描かれています。



ムーミン谷の仲間たち

トーベ・ヤンソン／著
山室 静／訳
講談社／刊（講談社文庫）
2011年 ¥610-

ムーミン一家を中心に、その仲間たちとの楽しい生活を描いたファンタジー童話。短編集なので読みやすいです。他人と自分は違ってもいいんだ、本当の仲間はいいなあ～と思える本でした。
(文庫のほか、読み物・絵本も多数出版されています。)



フェルメールの食卓
暮らしとレシピ

林 綾野／著 講談社／刊
2011年 ¥1,890-

フェルメールは「真珠の首飾りの少女」「牛乳を注ぐ女」などで有名な画家です。著者はフェルメールの絵には牛乳やパンはあっても、食卓の料理が描かれていないことに興味を抱き、17世紀オランダのレシピを現代によみがえらせた。